

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690168095		
法人名	医療法人 養生園		
事業所名	認知症グループホーム 樹庵		
所在地	徳島県徳島市城東町2丁目7番34号		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハビリ専門の療法士が常勤しています。ケアマネジャーと共に中心となり、入居者様の意向を踏まえたリハビリや生活機能メニューを考案し、スタッフ全員で実施するようにしています。また、入居者様の残存能力を最大限に活かし、困難なことをスタッフが補うことで、入居者様の自己効力感を高め、認知症の信仰抑制に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に県立高等学校や住宅、商店が建ち並ぶ賑やかな街中に位置している。同一法人の運営する協力医療機関が併設し、医療連携や災害時の協力体制を整備している。“入居者様の尊厳を守り、愛情をもって笑顔を引き出します。”を理念として掲げ、利用者を尊重し、笑顔を引き出す支援に努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下にあり、外出や地域との交流が困難なかで、レクリエーションや行事など、事業所内での取り組みを大切にしている。随時、利用者の気分や思いを考慮し、散歩や外気浴を小まめに行いつつ、自由な暮らしを支援している。全ての利用者がトイレを利用して排泄できるよう、排泄の自立に向けて支援することで、生きる意欲の向上につなげている。理学療法士や主治医、看護師とも連携を密にし、本人本位の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにケア理念を掲示し職員が意識し理念に沿ったケアができるよう心掛けています。また法人理念は名札の裏に記載されておりいつでも確認でき実践できるよう努めています。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示し、共有化を図っている。職員間で理念について話しあう時間を設け、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前は地域の方達が参加できる法人主催のお祭りに参加し交流を図ったり、事業所では慰問に来ていただき社会と繋がりが少しでも保てるよう心掛けていますが、現在はコロナ禍であり中止しています。	事業所では、散歩の際に、近隣住民とあいさつを交わすなどして、交流を続けている。感染症(コロナ等)の終息後には、ボランティアの受け入れや近隣住民との交流を再開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩したり、車で外出する事によって人と関わりを持ち、交流する事によって認知症の事を少しでも理解していただけるよう外出の機会を保つようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者様にデイサービス職員がいますので、さまざまなレクリエーションの参考にさせて頂いています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員に事業所の報告等を文書で送付し、意見を得ている。出された意見は、職員間で検討・共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には担当者様へ資料提出や関係書類の提出等で関係構築に努めています。今後はご意見をうかがえる様に連携を図るように計画しています。	管理者は、定期的に市の担当窓口を訪問し、事業所の報告等を行っている。管理者変更時にも訪問し、顔の見える関係づくりに努めている。困難事例等について相談したり、市主催の研修に参加したりして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口にオートロックの扉があるため、日に1時間程度開錠するようにしています。	事業所では、身体拘束に関する勉強会を開催するなどして、職員の意識の向上に努めている。日中、玄関を開錠する時間を設けたり、利用者の希望に応じて一緒に外へ出たりして、自由な暮らしを支援しているが、管理者は、より良い支援を目指している。	今後も、身体拘束廃止委員会等で、玄関の施錠等について、検討を続けられたい。職員間で検討を重ね、開錠できる時間を増やすなど、さらなる取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の倫理と虐待についての勉強会を実施しています。疑われる事例がもしあれば、ホーム長と該当職員が面談する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されていた方やこれから利用しようか考えている方がおられます。これらの事にも対応、支援できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容を一緒に確認しながら疑問等に答え丁寧な対応を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時や運営推進会議時に日常生活上の出来事を伝え、要望等あれば直ぐに反映できるよう努めています。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、意見や要望を聞いている。家族等からは、電話連絡や面会の際に意見等を聞きとっている。出された意見は検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを毎月実施。また、年に2回の個別面談を実施し意見を反映させている。	管理者は、毎月のカンファレンスや年2回の個別面談等で職員の意見や提案を聞いている。職員がこれから取り組みたいことなどを聞き、レクリエーションやスキルアップなどの内容に応じて職員間で話しあったり、代表者に相談したりして、職員の働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に自己評価を行ってもらい、出来不出来を自身で見直してもらっている。過信しているところは指摘、指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回の面談や日頃の仕事内容を確認しながら力量を把握し、内外の研修でスキルアップできるよう促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設との勉強会等交流する事により意見交換できサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談の機会を作り、本人様、家族様からヒアリングをし、できるだけスムーズに入居できるよう努力しています。入居後も安心して生活できるよう環境、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安要素があれば話あい、信頼関係が構築できるよう入居前から取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学に来ていただき、入居希望の経緯、現在の生活状況等をお聞きし対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みを把握し発揮できるような環境を整え、職員と共に向上していき職員は常に感謝の気持ちを伝える事を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様それぞれの関係性を理解しながらそれぞれに見合った関係性を保ち職員と共に本人様を支えていく関係作りができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の来訪は歓迎しています。また、家族との外出や外泊もできるよう支援しています。	事業所では、利用者と馴染みの人との手紙や電話のやりとりを支援している。感染状況に応じて、家族の協力を得て、墓参りや馴染みの飲食店に出かけるなど、関係継続に向けた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しながら席順を考えたり、職員が間に入り関係性を良好に保てるよう努力しています。またレクリエーションを通じて、関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談、支援に応じる事をお話させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの希望、意向に関心を持ちながらサービスを行っています。また意思決定できるよう否定はしないようにしています。意思決定困難な方はその方の表情や様子を伺いながら把握するようにしています。	職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで、思いや意向の把握に努めている。レクリエーションや新聞を読んでいる時など、何気ない言葉や仕草に注目して、本人本位に検討している。気づきや情報は、職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの経過記録を日々記入し共有しています。入居者様のできる事を大切にしながら支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の性格的な特徴の把握に努め、対応を個々で検討している。	事業所では、利用者の趣味等を把握し、家族等や主治医、看護師、理学療法士等の意見を聞き、介護計画を作成している。チェック表を用いて評価を行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録として行ったことを記載している。また、その反応や顔色の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様から要望、意見等伺い支援ができるよう努力しています。また職員全員がカンファレンス時だけでなく日頃情報を交換しながら新しいアイデアがあれば次のサービスに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分です。以前は年に数回慰問ボランティアをお願いし交流をしているがコロナ禍の為中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的に受診支援をしております。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っております。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は、家族等の協力を得ている。状況に応じて職員が付き添うこともある。家族の協力を得る場合は、書面にて情報共有できるよう工夫している。訪問診療なども利用しつつ、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医療機関から看護師にきてもらっている。月に1回カンファレンスを看護師と開催し、問題の把握や改善に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様や入院先の医療機関と情報交換を行い、本人様の安定を考慮しながら退院後も安心して暮らせるよう支援しています。また主治医には情報提供を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設医療機関の主治医や家族様と密に情報を共有しながら、入居者様の変化等報告しています。職員間でも変化を見落とさないよう様子観察し連携を図っています。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について利用者や家族等に説明し、意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等と話しあい、医療機関と連携を図りつつ、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、併設の医療機関と連絡がとれるよう整備しています。また職員は定期的に行う応急処置の研修に参加できるよう計画しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、非常時に備えてマニュアルを作成しています。法人内の併設医療機関の避難訓練にも参加し消火器の扱い方等を確認しています。	年2回、同一法人の運営する併設の医療機関等と合同で避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、避難誘導や設備点検、消火器訓練等を行っている。併設施設に備蓄品を整備するなど、災害時に備えているが、事業所独自や夜間想定での訓練の実施には至っていない。	今後は、合同での訓練に加え、事業所独自や夜間想定での訓練に取り組まれます。夜間帯の避難誘導の方法等について、実際に取り組むことで、より安全・安心な体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合いを行い見直しを行っています。また職員間でも意識し注意しあえるように努めています。	職員は、理念にそって、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。利用者への声かけは、一人ひとり顔を見て呼びかけるようにしている。利用者の表情などを確認し、無理強いすることのないよう、思いを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声かけを心掛けています。表情や仕草を観察しながら支持ではなく、会話の中で促しができるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングは本人の希望に添えていないこともあるが、緊急時に備える必要性等説明し納得して生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人様に着替えを選んでいただいたり、美容師に定期的に訪問していただき本人様に髪型をどうしたいか一緒に考えながらカットしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っている。食器拭きや机拭き、下膳は入居者様に手伝ってもらっている。	事業所では、きざみなど、利用者一人ひとりにあわせた食事形態へ変更し、食事を提供している。下膳や食器洗いなど、できることで利用者に参加してもらうことで、生きがいにつなげている。移動販売で、好きなおやつを選んでもらったり、誕生日にケーキを提供したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の計算を行っている。不足している水分やカロリーは捕食で補っている。カンファレンスにて看護師に指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科の訪問診療を実施していただき、その情報を元に一人ひとりの口腔状態の把握をし毎食後歯磨きの声掛け見守りを行っています。ブラッシング介助や義歯の着脱にも気を付けて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員がトイレでの排泄を行っています。必要に応じ、様子観察しながら声掛けや誘導するよう努めています。オムツはしないようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。布パンツやリハビリパンツ、パット等の使用を、心身の状況にあわせて検討している。夜間帯もトイレ誘導し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態確認を行い、下剤の調整を行っている。便秘がちな方には水分や便秘の体操を行い解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴タイミングを確認し、できるだけ以降に添えるようにしている。夜間の入浴希望には添えていない。	事業所では、少なくとも週3回の入浴ができるよう支援している。利用者のその日の気持ちやタイミングに合わせて、入浴の時間帯を決めている。利用者の羞恥心や負担感に配慮し、同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にテレビをみる方もいるので、できる限り音量の調整や聴力を把握し居室を選定している。 室温等も個別に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう各々のカルテに薬情を綴じています。処方内容が変更の際には医療連携ファイルに記載し申し送りでも伝え周知するようにしています。配薬の際には誤薬がないよう職員間と本人様で名前の記載を確認しあっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様から入居前の生活様式を教えてください、庭で土いじりや室内では将棋、クロスワード等個々で興味がある活動を行っています。また週に1度とくしまるを活用し個々の好みの沿ったおやつや必要品を選んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方は安全な範囲で職員が同行し散歩やゴミ出しと一緒に出掛けています。 地域との連携はできていない。	事業所では、気候の良い日に近隣の散歩に出かけている。玄関前の駐車場に出たり、裏庭の花壇やプランターの手入れをしたりして、外気にふれる機会を設けている。利用者が定期的に外出できるよう配慮し、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所では本人様のお金の所持は行っていません。一人ひとり預り金を家族様合意のもと事業所で管理し月単位で報告書をまとめて家族様にお渡ししています。しかし、欲しいものは事前に伺うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由に書いてもらっている。電話は携帯電話の持ち込み自由。また、電話は希望時にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはレクリエーションで作った壁画を飾り季節を感じられるよう努めています。室温は入居者様の意見を聞いたり、温度計で確認しながら調節するよう心掛けています。新聞や雑誌も配置しています。	共用空間は、広々としていて、清潔感がある。レクリエーションで利用者と一緒に作った作品や季節の花を飾りつけ、季節を感じるができるよう工夫している。移動の際に、妨げにならないよう、家具や席の配置にも留意し、安心・安全な共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他にリビングやサンルームがあり、他者が干渉しすぎないような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅の環境を再現できるように、自身のマグカップやタンス、写真を持ち込んでもらい、安心して過ごせるように支援しています。	居室には、家族等と相談し、利用者の馴染みの家具や調度品、作品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。希望に応じて愛着のあるぬいぐるみを持ち込んでもらうなど、その人らしく、居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の好きな目印を置く事で部屋間違いを防いでいます。トイレの間違いいには活字や写真でトイレの目印がわかるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにケア理念を掲示し職員が意識し理念に沿ったケアができるよう心掛けています。また法人理念は名札の裏に記載されておりいつでも確認でき実践できるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、積極的な触れ合いは難しい為、散歩や病院への通院時にお会いした際は挨拶等で、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内でのイベント時の写真をプリントしそれらの事を報告しながら、参加者様の意見、提案を聞き今後の参考にしてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者様にデイサービス職員がいますので、さまざまなレクリエーションの参考にさせて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際には担当者様へ資料提出や関係書類の提出等で関係構築に努めています。今後はご意見をうかがえる様に連携を図るように計画しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で拘束廃止に関する勉強会を開き、職員全員が周知できるよう努めています。ただ事業所には玄関施錠があり、施錠について職員間で話し合いしながら入居者様の負担にならないケアを目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を開いたり、毎月行うカンファレンスの時間をうい虐待の疑いが無いか話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されていた方やこれから利用しようか考えている方がおられます。これらの事にも対応、支援できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容と一緒に確認しながら疑問等に答え丁寧な対応を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設置している。家族様の面会時や運営推進会議時に日常生活上の出来事を伝え、要望等あれば直ぐに反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議内で意見や情報を共有し、サービスが向上できるよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性を理解し強みを発揮できるように職場環境を整えるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回の面談や日頃の仕事内容を確認しながら力量を把握し、内外の研修でスキルアップできるよう促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設との勉強会等交流する事により意見交換できサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談の機会を作り、本人様、家族様からヒアリングをし、できるだけスムーズに入居できるよう努力しています。入居後も安心して生活できるよう環境、関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安要素があれば話あい、信頼関係が構築できるよう入居前から取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学に来ていただき、入居希望の経緯、現在の生活状況等をお聞きし対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みを把握し発揮できるような環境を整え、職員と共に向上していき職員は常に感謝の気持ちを伝える事を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様それぞれの関係性を理解しながらそれぞれに見合った関係性を保ち職員と共に本人様を支えていく関係作りができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の来訪は歓迎しています。また、家族との外出や外泊もできるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しながら席順を考えたり、職員が間に入り関係性を良好に保てるよう努力しています。またレクリエーションを通じて、関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談、支援に応じる事をお話させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの希望、意向に関心を持ちながらサービスを行っています。また意思決定できるよう否定はしないようにしています。意思決定困難な方はその方の表情や様子を伺いながら把握するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの経過記録を日々記入し共有しています。入居者様のできる事を大切にしながら支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行うサービスをサービス実施計画書にまとめ、月末にはサービスが適していたのか話あっています。また家族様や他職者から意見を伺いそれらを元に介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、サービス実施計画書を記入している。しかし職員個々に記載の仕方のバラつきがあり、十分とは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様から要望、意見等伺い支援ができるよう努力しています。また職員全員がカンファレンス時だけでなく日頃情報を交換しながら新しいアイデアがあれば次のサービスに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分です。以前は年に数回慰問ボランティアをお願いし交流をしているがコロナ禍の為中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的を受診支援をしております。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が来られ、入居者様の体調管理をしていただいています。その際医療連携記録を利用し職員全員で共有しています。また不安要素があれば必要に応じ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様や入院先の医療機関と情報交換を行い、本人様の安定を考慮しながら退院後も安心して暮らせるよう支援しています。また主治医には情報提供を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設医療機関の主治医や家族様と密に情報を共有しながら、入居者様の変化等報告しています。職員間でも変化を見落とさないよう様子観察し連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、併設の医療機関と連絡がとれるよう整備しています。また職員は定期的に行う応急処置の研修に参加できるよう計画しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、非常時に備えてマニュアルを作成しています。法人内の併設医療機関の避難訓練にも参加し消火器の扱い方等を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合いを行い見直しを行っています。また職員間でも意識し注意しあえるように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声かけを心掛けています。表情や仕草を観察しながら支持ではなく、会話の中で促しができるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はありますが、一人ひとりの自己決定を大切にしながら尊重できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人様に着替えを選んでいただいたり、美容師に定期的に訪問していただき本人様に髪型をどうしたいか一緒に考えながらカットしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て配給されています。ただ弁当箱で配給されている物を器に入れ替え目で楽しめるよう努めています。事業所内でおやつレクを定期的に開催し入居者様と一緒に作る楽しみを感じて頂けるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録して注意を払っています。一人ひとりの好みを把握しながら、水分提供しています。また栄養状態が悪い方には主治医と相談し栄養補助飲料を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科の訪問診療を実施していただき、その情報を元に一人ひとりの口腔状態の把握をし毎食後歯磨きの声掛け見守りを行っています。ブラッシング介助や義歯の着脱にも気を付けて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員がトイレでの排泄を行っています。必要に応じ、様子観察しながら声掛けや誘導するよう努めています。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	投薬で調整が必要な入居者様は主治医と相談しながら対応しています。また体操や散歩を取り入れ身体を動かす事によって排便がスムーズに行えるよう努力しています。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、一人ひとり意向を伺い臨機応変に対応できるよう努めています。また一人ひとりの能力に応じ、職員がどこまで介入するか職員間で周知しながら対応しています。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮しながらレクリエーションやお茶の時間、体操の時間等参加していただき、自室でできるだけこもらないように心掛けています。そして夜間は安眠していただけるよう支援しています。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう各々のカルテに薬情を綴じています。処方内容が変更の際には医療連携ファイルに記載し申し送りでも伝え周知するようにしています。配薬の際には誤薬がないよう職員間と本人様で名前の記載を確認しあっています。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様から入居前の生活様式を教えてください、庭で土いじりや室内では将棋、クロスワード等個々で興味がある活動を行って頂いています。また週に1度とくしまるを活用し個々の好みの沿ったおやつや必要品を選んでもらっています。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には体調を考慮しながら散歩に出かけ前の川で魚を見たり眉山を眺めています。また併設の施設からマイクロバスを借り、神社や眉山島に行き四季を感じていただけるよう支援しています。残念ながら地域住民の協力を得るには至っていません。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所では本人様のお金の所持は行っていません。一人ひとり預り金を家族様合意のもと事業所で管理し月単位で報告書をまとめて家族様にお渡ししています。しかし、欲しいものは事前に伺うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様から希望があれば電話を取り次ぎ、子機を使用し自室でお話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはレクリエーションで作った壁画を飾り季節を感じられるよう努めています。室温は入居者様の意見を聞いたり、温度計で確認しながら調節するよう心掛けています。新聞や雑誌も配置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用し、リビングの端に設置し座れるようにしたり、面談室にもソファや机を設置しており、どなたでも使用できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、タンス、机、椅子が設置されており、布団もリースと決まっています。ただ使い慣れたクッションや家具等を持ち込まれ居心地良く生活できるよう支援しています。設置場所を相談し、導線の確保ができるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの能力を職員で把握し、柔軟に対応しています。危険がないよう見守り、必要な介助をしながら環境整備を心掛けています。		